

地域支援だより

令和3年 12月24日(金) 発行
北海道教育大学附属特別支援学校
地域支援部

本号は、過日開催した「進路学習会」に参加された方からいただいたご質問をもとに構成しています。今後の進路選択や進路実現の一助になれば幸いです。本年も大変お世話になりました。来年も皆さんのニーズにお応えする情報を発信していきます。どうぞよろしくお願いいたします。

進路学習会へのご参加ありがとうございました。

11月8日～11月18日に6回に分けて、進路学習会を行いました。9月にオンラインで行われた『函館地区福祉進路セミナー』での事業所紹介部分を視聴していただきました。函館市・七飯町・北斗市にある移行支援事業所(5カ所)・就労継続支援A型事業所(4カ所)・就労継続支援B型事業所(20カ所)の説明でしたが、作業内容や工賃、利用者さんについての情報など、各事業所のサイトを閲覧するだけでは分からない情報を多く得られたと思います。どの事業所も、見学を随時受け付けていますので、ご希望の方は進路担当山口または担任までお知らせください。日程調整等をさせていただきます。



ある卒業生の生活からイメージしましょう

(自宅生活～B型事業所利用)

- 9:10 送迎車迎え(自宅前)
- 9:20 事業所着
身支度
- 10:00 作業(途中休憩あり)
- 12:00 昼食
- 13:00 作業(途中休憩あり)
掃除・身支度
- 15:00 送迎車事業所出発
- 15:10 送迎車自宅到着

高等部卒業後は、放課後等デイのように15:00以降に利用できるサービスはあるの？



現在、放課後等デイサービスを利用しているご家庭が多くあると思いますが、放課後等デイサービスは学校在籍が条件ですので、高等部卒業後は利用することができません。卒業後、事業所等への通所した後にお子さんを預けられるようなサービスは、今のところないのが現状です。事業所によっては、事前の申し出で利用延長に対応していただけるところもあるようですが、毎日利用することは難しいようです。また、日中一時支援を利用することも可能ですが、月5日までと制限がありますし、送迎が必要になります。

お子さんが高等部卒業後、生活の場をどこにするか考えてみましょう

自宅で大丈夫

自宅では不安がある

将来に向けて家庭で取り組んでいただきたいこと

グループホーム等を利用することを検討しましょう

- お子さんの高等部卒業後の生活をイメージして、どんなことができるようになっていくのか考えてみましょう。例えば…
 - ・一人で過ごせる余暇活動があるといいなあ
 - ・1～2時間程度留守番ができるようになるといいなあ
 - ・玄関の開錠・施錠ができるようになるといいなあ
 - ・困った時に電話連絡ができるようになるといいなあ
- ◎放課後等デイサービスを毎日利用されているご家庭もあるかと思えます。将来を見据えて、平日の下校後に自宅で過ごす練習を時々してみるところから始めてみませんか？

- グループホームでは、ご家庭での生活のように、常に手厚く支援してもらえるわけではありません。利用する際には、自立してできることが多ければ多いほど、不安やストレスが少なくなります。例えば、
 - ・自分のものを管理できる
 - ・身支度を一人でできる
 - ・一人で入浴できる
 - ・スケジュールに沿って行動できる など
- ◎ショートステイの受け入れを再開している事業所もあります。経験するところから始めましょう。
※利用条件がある場合があります。

高等部卒業後のお子さんの生活の変化は、ご家族の生活に波及することもあります。就労先だけではないお子さんの将来像をイメージしながら、学校やデイサービスと一緒に考え、取り組んでいきましょう。